

仏像修復のよろこび

よみがえった獅子像と観音像く中村彫刻の仕事

本誌2019年10月号の「美の仕事」で、秋川雅史さんと仏像修復の現場を訪ねたが、そのとき修復中だった2体がこの春、無事作業を終えたという知らせをいただき、中村彫刻を再訪した。

中村彫刻の中村恒克^{つとむ}さんは、東京藝術大学で修復を学び、現在は横浜に工房を構えて、全国の美術館・博物館はじめ、寺社、所蔵家



修復前の獅子像は長年ほりをかぶった状態で、全身虫喰穴だらけ、脚も外れかかっていた

などから依頼を受け、仏像修復を請け負っている。今回紹介するのは鎌倉時代の獅子像と平安時代の観音像で、どちらも修復前とは見違えるような姿に生まれ変わっていた。

◆獅子像

「まず獅子像から見てください。この像は、元はおそらく文殊菩薩騎獅像の獅子だったと思われませんが、ご覧のように上半身だけの状態で長い間眠っていたようです。全体に厚くほりを被った状態で、虫喰も全体に及んでいました。脚も外れかかかってグラついており、左の肩やアゴも欠損していました」と中村さん。獅子の上半身だけでこのサイズということは元々は相当大きなお像だったのだろう。

「鎌倉時代らしい力強い造形、彫刻も見事で、当初のままで伝わっていたら重要文化財クラスのお像だったと思います。傷みが激しかったのでまずはクリーニングと剥落止めが最優先事項でした。最初は筆や綿棒を使って精製水で拭い、



彩色層の剥落止め作業。膠を染みこませた和紙を貼り、上からコテで押さえていく



虫喰穴を埋めていく作業。膠と砥の粉とマイクロバルーンの混合液を注射器で注入する

修復を終えた獅子像
(文殊菩薩騎獅子像の残欠)
鎌倉時代



砂っぽいほりを落としてから剥落止めにかかります。剥落止めには膠を使うのですが、手順としては彩色層と金箔部分にまず和紙を膠水で貼り、コテで押し当てて膠を浸透させていきます。剥落がひどかったので何度もしつこく行いました。しばらく固めて膠がしっかりと浸透したら、和紙をお湯で湿らせてゆっくり剥がすと、汚れも一緒に落ちるので彩色がよみがえってきます。とくに獅子毛と呼ばれる巻き毛の部分は色がずいぶん鮮やかになりました」

昔の良い彫刻は彩色層が厚く、汚れを落とすだけでも色が立ってくるのだ、という。「いまは緑に見えますが、当初は群青色だったかもしれないですね」とも教えてくれた。

「次に虫穴を埋めます。これは放っておくとまた虫が入る可能性があるからです。今回は、膠と砥の粉とマイクロバルーンという素材を混ぜ、注射器で注入しました。ただしすべて埋めず、ここは虫喰穴だろうとわかる程度に留めています。ここまでが時間と手間のかかるたいへんな作業でした。このあと外れかかっていた脚を解体して接着し直し、欠けた眉とアゴを補作して古色をつける工程は、結構楽しんで造れました。最後に寝かせたまま

観音像
平安時代
左上は修復前



ではかわいそうなので、所蔵者と相談し、支柱と台座を新たに作って立たせることにしました。これだけでも見る人に与える印象はぜんぜん違ふと思います」

◆観音像

「観音像は、顔と全身に塗膜が厚く塗られた状態で当座（86頁左上参照）。そこで当初の姿はどのような観音様だったのか、剥がせる範囲で剥がしてみたいという依頼だったので、クリナーを施してからゆっくり塗膜を剥がしていくと、まったく別のお顔があらわれて驚きました。眼の鋭い斬り方をはじめ、お顔、衣紋の表現など、平安時代の定朝様の流れを汲んだ仏像と思われる。唇の赤い彩色もあらわれ、その下には漆の層がなかったので、これが当初の彩色かもしれません。このような発見は滅多にないことで

感動しましたね。唇だけでこの鮮やかさですから、元々はどのような彩色だったのか、見てみたいですね」

予想外の発見があったことで所蔵者も喜び、急遽、お像の次第を調えることになったという。

「臂から先が後補であったため、両手と台座を新たに補作することになりました。このお像は目の細かい檜を使っており、こうした良材は現代ではなかなか手に入らないため、あちこち探しました。また製作にあたっては、臂を曲げていたことは確かですが、その先がどのような形だったかわかりません。手の形は観音さまの属性にも関わることで、なるべく違和感のないようにするのに気を遣いました。手の造形も平安風に、甲が少し丸くて手首でキュッと締まるようにして、指も細くてしなやかにと、時

代に合わせた補作を行っています。背面は塗膜があまり剥がれなかったもので、無理せずある程度残したままにしています。造像されてから少なくとも2度は修理されていると思いますが、この塗膜があったからこそ、平安の当初のお顔がタイムカプセルのように遺されていたともいえるわけで、この仕事のよろこびを実感しました」という。

どちらもレベルの高い作品だったわけだが、一方で、そうした隠れた名品がいまだに人知れず眠ったまま死蔵されている状況もあるということだ。貴重なお像を朽ち果てさせないためにも、中村さんのような修復の仕事を広く知ってもらいたいと思った。

※中村彫刻 www.tsuneyoshinakamura.com/

撮影：大屋孝雄（完成品）、中村恒克（作業工程）

そうけんどう
霜剣堂
www.sokendo.jp



良心的価格にて
買取いたします

帝国ホテル店
東京都千代田区内幸町 1-1-1
帝国ホテル本館地下 1F
Tel 03-6268-8899
原宿店
東京都渋谷区神宮前 6-28-1
Tel 03-3499-8080